

住民の心と心を結ぶ 生活道路の現道舗装

これまで町道に認定され拡幅改良計画が示されているにもかかわらず、用地問題等が解決されないまま長年放置されてきた道路や、長年生活道路として利用されてきた農道や河川の堤防等を簡易舗装して、地区住民の生活道路を確保する事業が推進されています。シルバーカー（歩行補助のための手押し車）を利用している高齢者の負担と不安を軽減するためにも早急な整備が待たれます。そこで今回は、生活道路現道舗装事業について、周辺にお住まいの方にご意見を伺いました。



渡辺 重子さん
下北迫・折返

この度、長年の願いであった、けがや骨折等が起きていた折返の生活道路が舗装されると聞いて、地域に住む人はもちろん、交通戦争といわれる現在の車社会の中で、お互いの安全が保たれますことは何よりの喜びです。町長さんをはじめ、町議会議員の方々の実行力に深く感謝申し上げます。

政道、人道、道徳等、すべて「道」から発展するものと思います。5年前に15



渡辺 孝一さん
折木・上原

行政区長を継いだ主人が、地域の方々の強い要望として具体事項を提出しましたが、予算、道路規格、地権者など難しい問題があつて遅れたことも聞きました。それらも解決され、この住み良い広野町の住民の「心と心を結ぶ道」として、早期の完成を心よりお願いいたします。

自宅前の道路が現道舗装された渡辺さんは、「この地区では、家の門口として農道を利用しているところが多いが、それ

が1本舗装されただけで、こんなにも暮らしが快適になるものなのか」とたいへん喜んでいきます。

中でも、見通しが悪くて危険な交差点を避け、中学生や通勤の車が安心して通行できるようになったことや、道路に雑草が生えず、砂利が飛んだり流れたりせず、手入れが簡単になったことが、なによりもうれしいということでした。

渡辺さんは、「舗装以前はさほど気にかげなかったが、今は農作業で道路を汚したときは清掃し、作業車も長時間停めて置かないようにしている。町として大きな事業も大切だと思いますが、比較的小ない予算でも、生活に密着した町民が本当に喜んで喜んでもらえる事業をこれからも進めてほしい」とおっしゃっていました。

（インタビュー 塩 史子）



現道舗装された農道（上原地区）

編集後記

近在の田んぼでは、稲刈りが最盛期をおかえ、秋本番となりました。

味覚の秋、実りの秋、食欲の秋といわれるように、秋になると食欲が出てくるのは、夏に消耗したエネルギーや水分を体が必要しているからだとす。

白菜、大根を主流とした秋冬野菜、底引き網で揚がる近海魚果物、山の幸、秋は美味しいものがいっぱいあります。

これからは、夜長の季節です。お料理は手間を惜しまず、旬のものをふんだんに使い、真心込めて作り、家族で楽しい食事をしたいものです。（塩）

広報委員会

- 議長 坂本 紀一
- 委員長 猪狩新一郎
- 副委員長 塩 史子
- 委員 中津 伸一
- 委員 渡邊 正俊

次の定例会は12月です